

学校における緊急時（アナフィラキシー発症時）の対応 ～ガイドライン補足～

平時からの備え(全教職員に徹底すること)

■各学校に「食物アレルギー対応委員会」(アレルギー対応について検討する会議)を設置する。
 メンバー:管理職、養護教諭、学級担任、栄養職員が中心
 想定される場面: ①給食

- ②食物・食材を扱う活動(図工・美術、家庭科、特別活動、生活科、行事等)
- ③校外学習、宿泊行事
- ④運動(体育、部活動等)

(1)対象者の把握と対応決定

- ①「学校生活管理指導表」に関する情報共有
- ②「緊急時対応カード」の準備と保管場所の共有
- ③エピペン®の保管場所の確認

原則、児童・生徒の通学カバン等とする。
 ※2本処方してもらい、1本は本人保管、1本は学校保管とする対応も有効

(2)全体での取組

- ①アナフィラキシー症状の理解など校内研修の定期的な実施(エピペン®トレーナー実習を含む)
- ②ヒヤリハット事例の検証
- ③校内訓練の定期的な実施

◆教職員の役割分担

緊急時に各教職員が具体的に何をするか決めておく。

教職員	主な役割
リーダー	・教職員への指示
連絡する係	・人を集める ・保護者、主治医への連絡 ・救急車要請(119番通報)
準備する係	・内服薬、エピペン®準備 ・AED準備
記録する人	・症状、対応を記録
その他応援教職員	・他の児童・生徒対応 ・AED心肺蘇生 ・救急車誘導 など

<<役割分担のポイント>>

- 管理職は、状況を把握、分析して対応を決定する。
- 児童・生徒のケア、救急車の要請をする者など短時間で対応できるよう複数に分担する。
- 管理職、養護教諭、担任がそれぞれ不在の場合も想定して役割分担を作っておく。
- エピペン®は誰でも使用できるようにしておく。

◆速やかな救急車要請

児童・生徒の緊急を要する症状の把握
 日頃から保護者と主治医との、どの症状の時に救急搬送すべきかなどの情報を共有し、確認しておく。

救急車要請(119番通報)のポイント

- ①「救急です。」
- ②「救急車に来てほしい住所・学校名」を伝える。
- ③「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」を伝える。
 - ・いつ …給食を食べた後
 - ・だれが…○年生もしくは○歳の児童(生徒)
 - ・どのような状態か…呼吸が苦しい状況
 - ・エピペン®処方及び使用の有無
- ④連絡している人の名前と連絡先を伝える。
 - ※ 向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話をかけてくることがあるため、通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく。
 - ※ 必要に応じて、救急車が到着するまでの応急手当方法を聞く。

緊急時対応のフローチャート

◆緊急時に備えて、それぞれの役割分担を確認し、シミュレーションをしておく。

